

ロゴスのこころ

令和2年
夏号

発行：米東PTA人権教育推進委員会

ごあいさつ



この度、人権教育推進委員会の委員長を務めさせていただきます。

皆様も感じておられると思いますが、この数カ月新型コロナウイルスの影響により、世界的に混乱が広がっています。そのことで、人種差別や暴動がいたるところで起こっています。私は、この様なニュースに触れる中で改めて人権教育の必要性を実感しています。

日本の中にいると人種差別の現状に触れることは少ないと思いますが、コロナ禍において感染拡大防止のため、やむを得ず様々な自由や権利が抑制をされた結果、人によっては職場を失ったり、収入が減少するといった状況となりました。高校生活においても、高校総体、夏の甲子園の中止、学校行事の縮小など、当たり前に出ていたことが、出来なくなっている状況下に置かれています。この様な状況下に直面した時、人は先の見えない恐怖や怒りから逃げ出したいために、その矛先を人へと向け、些細なことをきっかけに諍いが起こり他者への思いやりが欠ける事案も起こりえます。今年度の委員会では、コロナ禍の今だからこそ必要なテーマを題材にして講演会等の活動を行っていきたいと思っています。

すでに終わりましたが、6月25日には、委員を対象として、米子市人権政策課の新井様をお迎えし、感染防止に十分注意したうえで、「ほんとの空」から考える意識と人権という内容で、DVD視聴を中心とした勉強会を実施しました。勉強会の内容・感想については、この後にまとめさせていただきますが、福島原発事故を題材に作られた、差別についてのお話でした。今のコロナ禍にも同様なことが起こっていると感じました。目に見えないウイルスへの恐怖は、人への差別とつながり、感染者・医療従事者への偏見による攻撃が問題となっています。この様な不安な状況下の中で誰もが加害者にも被害者にもなりうるということを認識し、改めて今自分ができることは何かを考えることができる、良いきっかけとなりました。現在市役所の人権政策課においても、コロナ禍における人権問題に関する資料を作成し人権教育へとつなげていく予定であると同いました。今後皆さんで共有できる機会ができればと思っています。

10月には、鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻の竹田伸也准教授をお招きして「非常時に求められる心理学的対処(仮)」というテーマで講演をいただく準備をしております。日程は10月7日(水)夕刻を予定しております。3密を避け、かつ多くの方に視聴頂くことを考えリモートによる講演会も検討しております。

また、同月21日には学校にて生徒・保護者対象の人権教育講演会を計画しております。これらの様子は、今年度発行の「ロゴスのこころ第2号」で報告させていただきます。

感染拡大防止のために、色々と制限がある中、例年通りの活動ができないかと思いますが、「ピンチをチャンスに」という言葉があるように、今でなければできない内容を今だからこそできる方法で活動をしてまいりたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

人権教育推進委員長 廣江美穂

人権教育推進委員研修会

6月25日(木)に、米子市人権政策課の新井良穂さんをお迎えして、

DVD「ほんとの空」の視聴を通して偏見と差別について学びました。

今年度は新型コロナウイルスへの対応を考え、3密を避けて一時間以内で行う形で研修会を実施しました。密接を避けるため、例年のワークショップ形式ではなく、様々な差別や偏見を学ぶことができるドラマを通じて見えてくることを、新井さんに解説していただき感想を考えました。短時間の研修会でしたが、偏見と差別について改めて見直すきっかけになる、また、これから直面する、あるいはしているコロナウイルスにおける差別や偏見への考え方も学べたと感じています。



「ほんとの空」 あらすじ

「ほんとの空」は東日本大震災の後で制作されたドラマです。このドラマでは、ある家族が暮らす日常の中で様々な出来事が起こります。序盤では、高齢者や外国人に対する排除、不利益な扱い、同和地区に関する偏見、差別が起こります。これらは、すべて誤った考え方や思い込み、偏見によって生じています。中盤以降では、東日本大震災における原発事故に伴う風評被害の問題が起こります。同じマンションに住む福島から移住してきた少年と主人公の母の息子である少年が「空」を通して意気投合し友達になります。しかし、母親の未知なるものへの恐怖、偏見から移住してきた家族とのつながりに亀裂が生じます。また、移住してきた少年は風評被害により学校でもいじめを受けます。そのとき、少年は助けに入ったのですが、亀裂が生じていたためにケンカになります。そして、息子である少年は家を飛び出してしまいました。その事をきっかけに母親は息子が原発事故について勉強していることを知ります。未知なる恐怖にしっかり向き合い知ることで、「空」を通して知り合った少年との絆を深めようとしていた子どもの行動を知ることで、母親も気づきます。知らず知らずのうちに、誤解や偏見に気付かず他者を排除し、傷つけていたことに…。

裏に続きます

短時間のドラマでしたが、さまざまなことを学ぶことができました。
研修会に参加した委員の方の感想を紹介します。
ぜひ読んでください!



・ドラマの最後には「あしたの空」へ向けて、差別だけでなく、親として子どもと向き合っていく姿も描かれていて良かったです。何気ない日常、知らず知らずのうちに誰かを傷つけていることもあるのかも知れません。お年寄りに対する態度等も、差別になってしまっているのかも…。相手の立場になって「言動・行動」していく大切さを再確認しました。思いやりの心を持つことで、世の中がもっと暮らしやすくなると思います。

・知らないことで、不確かな情報にまどわされ、不安になる。そこから偏見や差別に繋がっていくのだということを、改めて、気付くことができました。知る努力をすることで、お互いがわかり合え、差別する心も無くなっていくのだと思います。

・頭でわかっていても本音の部分が出てしまう主人公の母親はどこにでもいる人だと思いました。素晴らしいのは気付いた事を素直に謝る態度、なかなかそこはできない部分だと思います。いろいろな内容が詰め込まれたドラマでしたが、もし自分がその人の立場だったら、という視点と正しい知識を持つ事が大事だと思います。

昨年度も『ふつう』って何だろう?というテーマで研修しましたが、このドラマでも母親が息子に対して、「ふつうにできないの?」と言う場面がありました。



・改めて、「普通」という言葉は、人を傷つけることもあるのだなと感じました。主人公の母親も最後のほうでは、息子に対して、「ふつう」じゃなくていい、変わった子でもいいよね、「ふつう」なんてない、と意識が変わってきました。一人一人にとって「ふつう」の形は違うということを再認識し、「相手のふつう」を受け入れる意識を大切にしたいと感じました。

・ほんとに「ふつう」ってなんだろう?というも思いますし、自分自身の子どもに聞かれた時も、どう答えていいかわかりませんでした。今日のドラマはどれも身近にあり得ることで、わかりやすく様々な差別・偏見について考えやすかったです。これからは、偏見等に対して意識していくことを身につけていきたいと思いました。

新井さんがコロナウイルスに関連して、ご自身のことについておっしゃっていた「頭ではわかっているけれど心が追いつけない。自分の身を守るために人を傷つけてしまうことがある。」という言葉が心に残りました。

新井さんは、コロナウイルスにおいても、見えないものへの恐怖から、人への攻撃・差別へつなぐとおっしゃいました。憎むべきは人ではない。人に寄り添うことの意味を今一度考えたいと。
また、私にとっての「ふつう」は家族一人一人が「安心」して、暮らせること、ともおっしゃいました。親の姿は見本であり、弱い立場の人の気持ちを気遣えるような人でありたい。そんな子どもたちになるように育てたいものと。



・東日本震災直後の福島放射能と今日のコロナウイルスの見えないものの恐怖、よく分からないから怖いという感情、とてもよくわかる内容でした。そして敵は見えないウイルスであって人ではないとわかっていても、遠ざけたいと思ってしまうことも現実としてあります。差別や偏見は自分にゼロかと言われたら、ないと言い切れないなども思う。一人暮らしをしている息子が帰省すると言ったら、実際いろいろ考えてしまう。確かなことは、よくわからない情報に振り回されないこと。自分の中に正しさをしっかり持っておくこと。新井さんは、それを「安心」と言っておられた。安心できる根っこを親として育てていきたい。

・子どもは親を見てる。本当にその通りだと思いました。頭でこれは偏見、差別になるんじゃない?って考えていても、実際に自分にとってマイナスになる事はさけてしまう事もあるので、やはり人を思いやるという事を根底に、自分の言動に責任を持たないといけないと改めて思いました。悪いと思ったことは反省することを忘れないようにしたいです。

・今、新型コロナウイルスが取り巻く様々な問題に共通するところがあると思いました。放射能もウイルスも見えない恐怖やわからないものへの恐怖で多くの人を不安に陥れ、その結果、それが他者への攻撃や排除へ繋がっていくのだと思います。確かに未知へのものへの警戒は必要なものだと思います。しかしそれが他者を傷つける行為であってはならないと1人1人が意識しなければいけないはず。私自身も今、新型コロナの中、誰かを傷つけるような行動や発言をしていないかどうか日々考えたいです。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。
一日も早く、穏やかな日常が戻りますことを、こころより願います。
皆様も、引き続き感染症対策に十分に注意してお過ごしください。